

桃丘亭の由来

戦後間もない昭和二十二年頃、養老公園内（岐阜県）に茶室を建設する計画が持ち上がり、即中齋宗匠及び無適齋久田宗匠を迎えて打ち合わせ、公園入り口の大悲閣の裏山に決定した。然るに地元協力者が少なく建設が延び延びになるも、幸い昭和二十五年春当神社境内に茶室建設の話が持ち上がり、養老の設計を流用する旨即中齋宗匠に願い出て快諾を得、吉田萬次・森 伝吉両氏の並々ならぬ尽力により、建設に着手することになる。

茶室は齋館と隣接し着工され、四畳台目の茶室と長四畳の控えの間と水屋で、原案は無適齋久田宗匠と林不同庵殿と合議の上で作成し、即中齋宗匠の意見を取り入れお好みの茶室として東海地方唯一の茶室が見事完成した。

齋館の一部として使用するに手狭な為、八畳の寄付きと奥玄関とを追加して齋館とをつなげ、昭和二十五年十月十九日に目出度く竣工した。

昭和二十六年四月に即中齋宗匠が献茶式御奉仕の為来社、茶室をご覧になって桃丘の二字額と台目棚の下板の左前隅に御花押の染筆とを願い、露地庭も更に手を入れていただき遂に完成を見たのである。

昭和三十九申辰歳正月

真清田神社桃丘会